



Quick調査レポート「患者手帳の活用に関する調査」

Topics

- ✓ クリニック勤務医の6割が、症状や測定値、受けた治療などを記録する手帳やアプリを活用する患者がいると回答
- ✓ 製薬・医療機器メーカー提供の記録手帳を活用している患者や、個人でノートやパソコンで記録している患者を挙げた医師が多い
- ✓ 患者による治療などの記録の確認は、コンプライアンスの維持や治療の調整、悪化への気づきなど、医師の診療にポジティブな影響をもたらすほか、コミュニケーションの円滑化にも役立っている

調査背景・目的

- ✓ 製薬メーカー、医療機器メーカー、行政などが、患者向けに治療や症状などを記録する手帳やスマートフォン・アプリを数多く作成・配布している
- ✓ それらはどのくらい診療で活用されているのだろうか

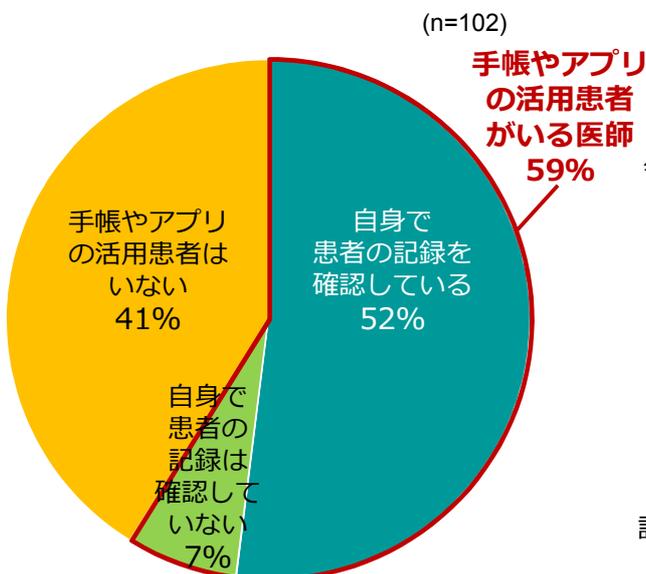
調査概要

調査方法：インターネット調査*クイックサーベイ
 調査地域：全国
 調査対象：クリニック（19床以下）勤務医

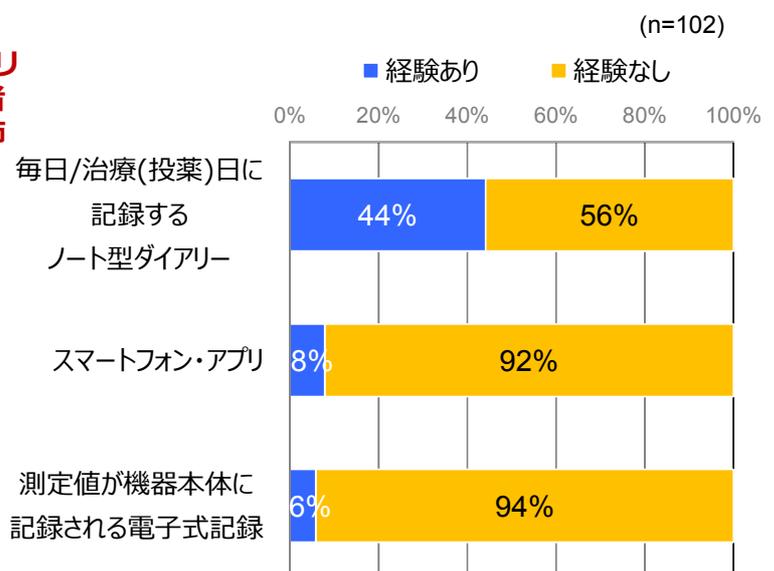
有効回答：102サンプル
 調査期間：2015年6月8日～6月10日
 調査機関：株式会社アンテリオ Quick Survey室

調査結果

手帳やアプリによる患者の記録の確認状況



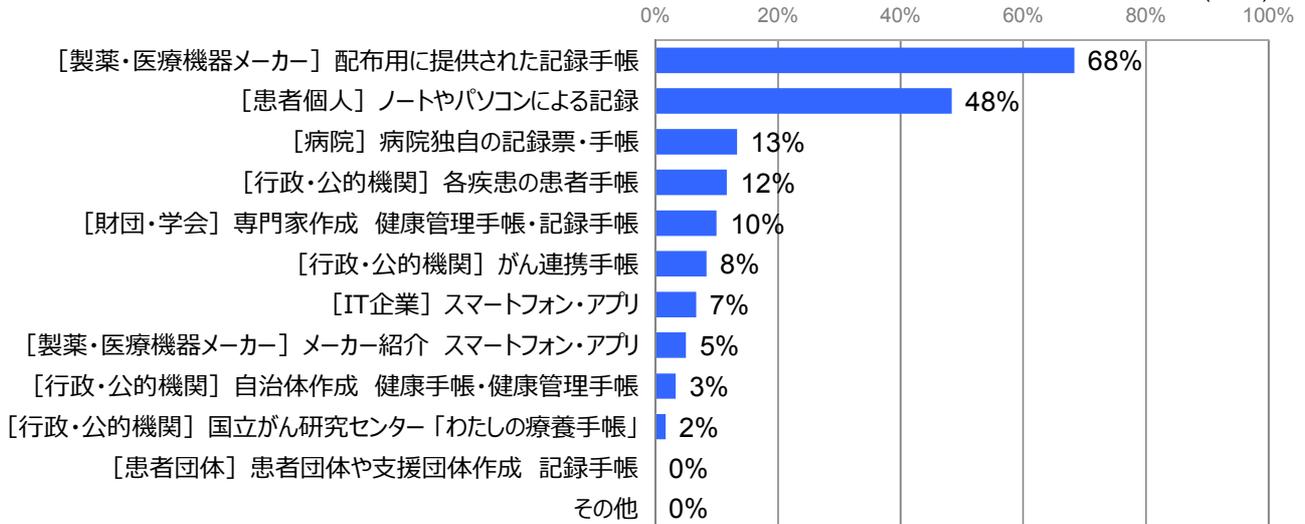
手帳やアプリの提供・紹介経験の有無



患者が症状や治療について記録している媒体

*手帳やアプリの活用患者がいる医師ベース

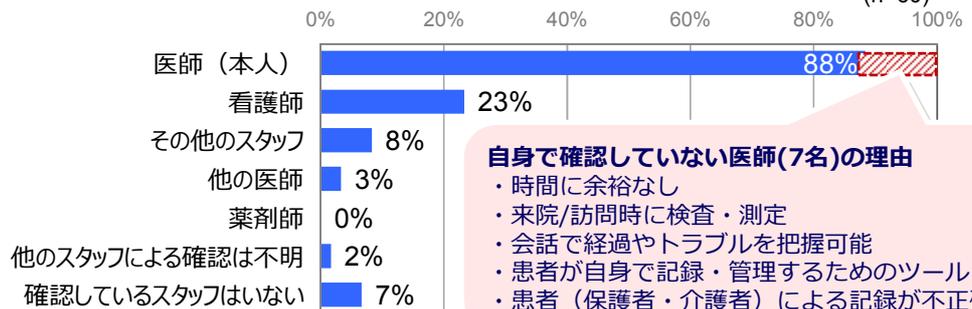
(n=60)



患者が記録している手帳やアプリの確認状況

*手帳やアプリの活用患者がいる医師ベース

(n=60)



患者による治療の記録が診療に与える影響

*患者が記録した手帳やアプリなどを自身で確認している医師ベース

(n=53)

